

クローバー

Clover



編集・発行
君津中央病院
☎0438(36)1071

2024.Jun. **vol.73**

信頼される病院を 目指して



新病院長 柳澤 真司

理念

私たちは、良質で安全な医療を提供し、
地域の皆さまに親しまれ、
信頼される病院をめざします。



認定第 JC295-4 号
一般病院 2 (3rdG:Ver.2.0)
2019.8.23 ~ 2024.8.22

日本医療機能評価機構とは、市民が
適切で質の高い医療を安心して享受
できるよう、医療機関の機能を学術
的観点から評価する第三者機関です

基本方針

- 1 患者さんの権利と尊厳を尊重し、患者さん中心の医療を推進します。
- 2 患者さんに信頼される質の高い医療を提供します。
- 3 地域の中核病院として、高度専門医療、救急医療、小児・周産期医療、災害医療および感染症医療を提供します。
- 4 地域連携を推進し、必要とされる医療を提供することで、地域・社会へ貢献します。
- 5 職員の教育・研修を推進するとともに、次世代を担う医療人を育成します。
- 6 チーム医療を推進し、経営の健全化と明るく働きがいのある職場をめざします。

目次

病院長就任あいさつ	1	がん診療よもやま話	5
医務局形成外科	2	君津中央病院附属看護学校	6
看護局外来1	3	大佐和分院からのお知らせ	7
医療技術局臨床工学科	4		

病院長就任のご挨拶

令和6年4月海保隆

前病院長より引き継ぎ、

君津中央病院長を拝命

いたしました柳澤真司

(やなぎさわしんじ)と申します。よろしくお願い申し上げます。

地域の皆様および諸先輩職員が築き上げてきた伝統ある病院の運営をお引き受けすることとなり身が引き締まる思いでございます。

私は、昭和35年、長野県生まれです。平成6年4月に当院に赴任し、一時他施設に勤務したことがありますが、ほぼ27年間当院に外科医として勤務してまいりました。

当院は木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市の4市からなる君津医療圏の中での唯一の総合病院、中核病院です。千葉県は全国でも下から3番以内に入る医療過疎県ですが、君津医療圏はその中でもさらに医療資源が少ない地域です。またご存じの通り少子高齢化が進行していますが、当地区も例外ではなく高齢者の医療の需要が急増しており、今後も需要は増大します。

当院は急性期医療を担当しています。ご高齢の方は入院の原因となる疾患以外に様々な余病を持っている方が多く、また入院生活それ自体が体力の消耗を招きます。入院中は早期からリハビリ



を行い体力の低下を防ぎ、早期の自宅退院を目指します。しかもとから体力低下のある方など、原疾患が落ち着いても自宅退院が難しい方が増えています。そのような方は回復期あるいは慢性期と呼ばれる病棟のある病院への転院をお願いしていますが、当医療圏には回復期病棟が少なく、また転院を希望されない方もおり、急性期を過ぎてもなかなか退院・転院できない患者さんが増えており、問題となっております。

国の方針により「地域包括ケアシステム」という構想が進められています。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・住まい・生活支援等が包括的に確保される体制のことです。当院は急性期医療を担当し、入院・外来とも、ある程度安定した患者さんは地域の他の病院、クリニック、施設などをお願いしていくこととなります。当地区の少ない医療資源を有効に活用しなければいけません。一つの病院でこの地域を支えることは不可能であり、地域で役割を分担していくことが大切になります。そのためのシステムを構築していくことが課題と考えております。地域の皆様のご協力もお願いいたします。まず一つは気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことをお勧めします。

皆様の健康を守ることが私共の使命であります。皆様に信頼される病院を目指して、職員一同精進し努力を続けていく所存でございます。何卒よろしく願います。

(病院長 柳澤真司)



「形成外科って何を治療する科なの？」

今では大分認知されてきましたが、まだ誤解も多いようです。形成外科の扱う疾患は多岐にわたるため一言でいうのは難しいのですが、大雑把に言えば「身体組織の欠損、変形や醜形（特に目に見える部分）を正常に、あるいはよりきれいに修復する」診療科と言えます。やっぱりわからないと言われるのですが、私が形成外科医になってからの約40年間にも対象疾患が大分様変わりしました。それは医療技術、器械、材料や薬剤の進歩などの医学的な側面と超高齢化社会を迎える日本の社会構造や疾病の変化などによるものと考ええます。具体的な対象疾患は形成外科学会のホームページでご覧頂くとして、大きく変わったと思うものを羅列してみます。

1. 眼瞼下垂、眼瞼内反症

昔は眼科で治療されていた疾患です。形成外科でも先天性眼瞼下垂は昔から治療対象でしたが、現在では高齢化に伴った加齢性眼瞼下垂が増加し、形成外科が扱

う代表的な疾患のひとつとなっています。また眼瞼内反症（逆さまつげ）も形成外科で扱うのは主に若年者でしたが、現在では加齢性の眼瞼内反症がほとんどを占めています。

2. レーザー治療

器械の進歩という点ではレーザー治療はめざましいものがあります。昔はアルゴンレーザーや普通のルビールーザーなどで治療していましたが、治療効果に限界がありました。その後「熱緩和時間」の概念導入によるQスイッチレーザーが開発されてからのレーザー機器の開発・応用はめざましいものがあります。現在では太田母斑や単純性血管腫の治療がほとんど副作用なく治療が可能となってきています。ただし、それぞれの疾患に対応した器械が必要です。（当院では色素レーザーで血管腫の治療が可能です）

3. 下腿・足潰瘍

高齢化社会に伴って成人病が増え、糖尿病や閉塞性動脈硬化症に伴う下腿・足潰瘍の患者さんが増えてきました。昔はすぐ切断し、形成外科で扱うことは少なかったのですが生命予後を含めたADL、QOL向上のため下肢救済が求められる

ようになり形成外科が関与することも多くなっています。原因に対する治療が肝心ですので多職種による治療が必要になります。

4. リンパ浮腫

乳癌や子宮癌の術後にリンパ流が阻害され四肢の浮腫を来することがあります。また原因のわからない原発性リンパ浮腫もあります。保存的な理学療法とともに昔はトンブソン手術などの大がかりな手術も行われてきました。またリンパ管静脈吻合、リンパ節静脈吻合なども以前より細々と行われてはいましたがあまりよい結果は得られませんでした。近年スーパーマイクロサージャリーと呼ばれる0.5ミリ前後の血管やリンパ管を吻合する技術により再度リンパ管静脈吻合による治療が脚光を浴びています。すべてがうまくいくわけではないようですが、それなりの効果が期待できる治療の一つとなりました。

他にも形成外科の様々な分野において40年前とは比較にならないような進歩がありました。今は昔、これからも驚くような進歩があることを期待しています。

（形成外科 重原）

看護局 外来1

診療部門について

当院の外来は、診療部門と検査・治療部門に分けられます。

今回は建物の1・2階の診療部門の紹介となります。取り扱う診療

科は23科となり、新生児期から成人期の幅広い年齢層を診療しています。構造は診察室を8つの受付カウンターに分けたブロックと、処置を行う中央処置室で構成されています。

診療には、各診療科医師・看護師・外来クラーク（事務員）や、その他の医療スタッフが協力し合い、病院理念に沿った良質な医療を提供出来るように連携を図っています。近年は、外来医療の機能分化が進み、この4月からは医師の働き方改革も始まりました。

日頃より患者さんには、医事課受付から診察終了までの、診察待ち時間でご不便をお掛けすることがあります。外来スタッフは、待ち時間の短縮に繋がる努力や検討を行っています。昨年度の看護研究発表会では、待ち時間調査を行いました。受診当日に新規で来院された場合と、事前に地域連携予約をされた場合の所要時間を比較しま



した。結果は地域連携予約をされた場合が、最長時間で比較すると1時間以上待ち時間が少なくすみました。地域連携予約を事前に利用して頂くとスムーズな診療ができます。是非ともかかりつけ医の診療を受けて、診療情報提供書を当院にご持参ください。事前の診療予約をお勧めいたします。当院での緊急の診療が必要な場合は、地域の医療機関と医療連携を取っておりますので、紹介受診が行われます。

外来では特定看護師（※1）や認定看護師（※2）が在籍し、ストマ看護外来やがんゲノム医療の専門の知識や技術を發揮しています。がんゲノム外来では、「がん細胞」に起きている遺伝子の変化を調べ、患者さんに適した治療を検討する「がん遺伝子パネル検査」を実施しております。医師、認定遺伝カウンセラー、看護師をはじめとした、がんゲノム医療に詳しいスタッフが対応させて頂き、検査がスムーズに受けられるように支援をしています。

（外来1 白石）

※1 包括指示に従い、医師の判断を待たずに一定の診療補助業務（特定行為）を実践するために必要な知識と技術を持つ看護師

※2 特定の看護分野において熟達した知識や技術を持っているとして、日本看護協会の認定を受けた看護師

患者総合支援センターからのお知らせ vol.0 <予告編>

何をしているの？

患者総合支援センターとは??

どんな時に利用できるの？

次号よりご紹介していきます！

Coming soon!



どう防ぐ？

「安全」とは、「許容不可能なリスクがないこと。リスクを許容可能なレベルまで低減させることで達成される。」と定義されています。患者さんに安全な医療サービスを提供する上で、医療機器の特徴と正しい使用方法を理解して、安全に使用することが重要です。

臨床工学技士とは

医学と工学の知識を併せ持ち、血液透析装置、人工呼吸器、人工心肺装置などの生命維持管理装置の操作や、院内にある医療機器をいつでも安全に使えるよう保守・点検を行う医療技術者です。院内には21名在籍し、6千台程の医療機器の安全管理を行っています。その他にも、臨床工学技士の業務として

- ✓医療機器の保守点検を実施して不具合がないかをチェックすること
- ✓医療機器を使用するスタッフへ正しい使用方法や機種毎の特徴を理解するための教育活動を行うこと
- ✓医療機器に関連する情報を収集（事故やヒヤリ・ハットなど）し、スタッフへ周知させること

などがあります。



臨床工学技士としての技量が試される

ECMO（エクモ）管理

この数年、新型コロナウイルス感染症の重症患者さんに対する治療としてECMO（エクモ）という言葉を目にする機会が増えました。当院でも年間25件以上、ECMOを用いた治療を行っています。

ECMOは人の心臓や肺の代わりに人工肺とポンプを使って、血液を体外に取り出し、酸素と二酸化炭素の交換（ガス交換）を行った後に、体内に血液を戻します。心臓の機能が低下し、血圧が維持できない循環不全や、人工呼吸器を使用しても改善しない呼吸不全など、生命を守る「最後の砦」として使用されます。

このようにECMO稼働中は生命維持に直結する循環と呼吸を代行しているため、万が一機器トラブルが発生したとしても停止させるわけにはいきません。

血液は空気と触れる、異物と接触すると、血栓ができるため、抗凝固薬を適正に使用します。また、人工肺は1週間ほど経過すると性能が下がります。

このため、臨床工学技士は常に複数の機器をモニタリングしてトラブルになる前に原因をいち早く把握できるように努めることが安全に繋がる一歩と考えます。

（臨床工学科 畠田）



がん診断された方・ご家族の方へ がん相談支援センターのご案内

がん診断されたり、大切な人ががん診断され、大きなショックを受けているかもしれません。この先どうすればいいのだろうと途方に暮れているかもしれません。

がん治療では、多くの場合、入院や定期的な通院、自宅療養が必要となるため、仕事や家事、社会活動に影響が及びます。そのような状況でも、治療だけではなく、できる限りその方らしく過ごすことも大切に、生活と治療の両立を目指すことができるようになってきました。全てが今まで通りにいかないこともありますが、その部分は、サポートを受けたり、今まで自分でできていたことが、集中力が保てない時などサポートしてほしい時は、手助けを受けることが必要です。

「がん相談支援センター」にご相談いただければ、さまざまな助成・支援制度や、介護・福祉サービスの中で、活用できるものがあるかもしれません。

*がん相談支援センターは、全国の「がん診療連携拠点病院」に設置されている、がんに関するご相談の窓口です。

当院のがん相談支援センターは、研修を受けたがん専門の医療ソーシャルワーカーが、電話や面談形式で相談に応じています。当院にかかっていない方でも、無料で相談が受けられます。

生活のことや、治療や療養に伴う疑問や不安を誰かに話すことには抵抗があるかもしれません。また、相談した内容が他者に知られてしまうことへの心配もあるかもしれません。しかし、ご相談いただいた内容が、あなたの同意なしに他者に知られることはありません。また、匿名でのご相談も可能です。

「相談をすると、担当の先生がよく思わぬのでは」と心配される方もいらっしゃると思います。そんな時は、そのご不安を含めて、相談員にお話してください。相談員が、そのお気持ちに配慮をしながら、相談にあたらせていただきます。

一人で悩まず、気軽ににご相談ください。

（がん相談支援センター

ソーシャルワーカー 保坂）

●希少がんについて

- ・希少がん（患者の数が少ないがん）の詳しい情報を知りたい
- ・希少がんの治療や療養について相談したい

●療養生活、制度やサービスについて

- ・仕事を続けながら治療はできるか
- ・自宅で療養したい
- ・活用できる助成・支援制度、介護・福祉サービスを知りたい
- ・介護保険の手続きを知りたい

●今の気持ち、不安や心配などについて

- ・今の気持ちを話したい
- ・不安でたまらない
- ・気持ちが落ち込んでつらい
- ・何を相談してよいか分からない

●治療について

- ・がんや治療について詳しく知りたい
- ・セカンドオピニオンを聞きたい
- ・緩和ケアを受けられる病院はあるか
- ・治療の副作用と上手に付き合いたい



ご相談内容

●妊よう性、性に関すること

- ・がんや治療は、妊娠や出産に影響するか
- ・がんや治療によって、性機能や性生活に影響はあるか
- ・パートナーとの関係が心配

●家族とのかかわりについて

- ・家族にどう話していいか分からない
- ・家族に心配をかけるのではないか
- ・家族の悩みも相談したい
- ・家族として患者にどう接してよいか分からない

●医療者とのかかわりについて

- ・医師の説明が難しい
- ・医療者に自分の疑問や希望をうまく伝えられない
- ・何を質問すればよいか分からない

●AYA世代（15歳～30歳代）のがんについて

- ・学校は続けられるか
- ・就職や仕事はどうなるか
- ・育児のことで困っている
- ・子どもや親、職場や学校にどのように伝えればよいのか



お問い合わせ先

がん相談支援センター
TEL：0438-36-1071

* 2階 患者総合支援センターが窓口となります
【相談時間】8：30～17：15（土日祝祭日は除く）

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

君津中央病院附属看護学校

卒業式を挙行了しました

令和6年3月7日、春の訪れを感じさせる暖かい陽気の下で、令和5年度卒業式が挙行され、第48回生52名（女子49名、男子3名）が思い思いの華やかな装いに身を包み、清々しい表情で晴れの日を迎えました。

コロナ禍以降、式典は規模を縮小しての開催を余儀なくされていましたが、このたびはご来賓の皆さまをお招きして盛大に開催することができました。ご家族や病院・学校関係者を含めた数多くの皆さまが見守る中、卒業証書ならびに専門士称号授与書が授与されたほか、成績優秀者には県知事賞、千葉県看護協会長賞、企業長賞、学校長賞が贈られ表彰されました。

コロナ禍で看護の道を志し入学した第48回生には、入学後に辿ってきた道も決して平坦ではありませんでした。感染対策のため厳しい行動制限は避けられず、友人との息抜きの機会もままならない辛い日々もありましたが、全員が一丸となりこの苦境を乗り越えてきました。



卒業生代表は答辞の中で感謝の言葉とともに、「私たち第48回生は、繰り返し学年での話し合いを行い、自分の意思を伝えることの大切さを学んできました。ともに多くの困難に立ち向かい、学年全体で悩んだ日々は忘れられません。多くの仲間に出会い、過ごした学生生活を胸に、これからも看護の道を歩み続けていきたいと思います」と述べ、3年間の学生生活を振り返るとともに今後の決意を新たにしました。たくさんの方々から祝福を受けた卒業生52名は、試行錯誤しながら学びを深めたことを心の糧とし、これからの医療現場を担う看護者の一人として、各々が志す道を行きます。

がんサロンのお知らせ

がんサロンは、患者さん、ご家族の方が、がんのことを本音で語り合える交流の場です。悩みを語り、聞いたりする中で、体験を共有し共に考えることを大切にしています。安らぎを得たり、不安や孤独感が軽減したりすることがあります。アットホームな雰囲気ですので、是非お気軽においでください。

日時	令和6年6月21日（金）、7月19日（金）、8月16日（金） 毎月第3週金曜日 14時30分から16時まで
場所	4階 講堂1 ※予約は必要ありません。費用無料です。
お問い合わせ先	電話 0438-36-1071（代）担当：ソーシャルワーカー 保坂 まで

大佐和分院からのお知らせ



大佐和分院では、人間ドック、特定健診、各種予防接種、睡眠時無呼吸症候群のためのスクリーニング検査などを行っていますので、お問い合わせください。

人間ドック

【実施している曜日】 毎週水曜日と金曜日（予約制）

【検査内容】 採血、胸部X線、心電図、超音波検査、胃カメラ検査、眼底検査、診察など

※検査内容の詳細やオプション検査については、お問い合わせください。

【申込方法】 電話か直接ご来院していただき、お申込みください。

【費用】 お問い合わせください。

特定健診

各医療保険（国民健康保険、後期高齢者、協会けんぽなど社会保険）の特定健診を行っています。加入している医療保険から受給券や受診案内が届きましたら、お問い合わせください。

ヒトパピローマウイルス感染症（子宮頸がん）予防接種

【実施している曜日と時間】 毎週月曜日、木曜日 15：00 と 15：30（予約制）

【当院で使用するワクチン】 シルガード（9 価ワクチン）

【申込方法】 電話か直接ご来院していただき、お申込みください。

その他の予防接種（小児・高齢者肺炎球菌、带状疱疹など）

予約制です。お問い合わせください。

睡眠時無呼吸症候群のためのスクリーニング検査と CPAP 療法を行っています

【睡眠時無呼吸症候群とは】

眠っている間に呼吸がとまってしまう状態が繰り返される病気です。

この病気の方は、夜間の無呼吸により十分な睡眠がとれていないため、日中に強い眠気から集中力が低下し、健常人より交通事故の発生率が高いとの報告があります。また高血圧の悪化や不整脈、脳血管障害、虚血性心疾患、糖尿病などの疾患との合併症が報告されています。

以下のような症状があるとき、睡眠時無呼吸症候群が疑われます。

いびき、日中の過度の眠気、睡眠中の窒息感、あえぎ呼吸、不眠など

※当院では、スクリーニング検査（簡易検査）と CPAP 療法を行っていますので、お問い合わせください。

※スクリーニング検査（簡易検査）の結果によっては、診断のための精密検査を目的に、他の医療機関を紹介させていただきます。

お問い合わせ先 電話：0439-65-1251